【朝の礼拝・校長講話】１１

人生は敗者復活戦

2023・2・20　校長　重枝一郎

「俺は最強だ！」という言葉をテニスラケットに書いてプレーしていた**国枝慎吾**さんを知っていますか。車いすテニス界をリードし，先日引退表明をした方です。国枝さんは長年世界のトッププレーヤーであり続けました。国枝さんは小学校 4 年生の春，背髄腫瘍を患い車いす生活になりました。ふさぎ込んで家でテレビゲームばかりしていたのを母親が心配して，小 6 の時，車いすテニスを勧めたのが始めたきっかけだそうです。元々スポーツが大好きで野球少年だった国枝さんは，めきめきと腕を上げ，高校生の頃は海外で試合をするようになっていたそうです。2004 年のアテネ・パラリンピックでのダブルスの金メダルを手始めに，年間の主要な大会すべて金メダルというグランドスラムも成し遂げていきました。その技術は車いすテニス界に革命をもたらしたとも言われます。

こういう話を聞いてみなさんはどう思いますか。おそらく，その人の努力や乗り越える苦労を尊敬するのではないでしょうか。ただ，その尊敬の念だけだと「国枝さんはすごいけど，自分にはとても無理かも」と思ってしまうのではないでしょうか。

私はまず，国枝さんの達成感や喜びを感じ，自分と重ね合わせて考えていくことが大切だと思います。そして，国枝さんからは特に「向上心」や「個性の大切さ」を学べるのではないかと思います。

このように，「人物から学ぶ」ということはよくある話です。でもその人物の努力や苦労に偏らず，**その人物の考えや行動から，自分自身の身近な考えや行動を変えていく**ということが大切です。

そういう意味からも，**「青春って，すごく密なんです」**という話をした夏の甲子園優勝監督の**仙台育英高校の須江航先生**の話を思い出しました。今までの野球の強豪校の監督とは少し違うイメージを受ける須江先生の指導は，多くのメディアに取り上げられました。夏の甲子園で日本一をとった後，須江先生は「次は日本一のチームでなく，幸福度の高いチームをつくりたい」と話していたそうです。昔の高校野球は，指導者が「右」と言ったら，選手全員が何も考えず「右」を向くというイメージが少なからずあったように思います。須江先生は「幸福なチーム」の「幸福」についてこう語っています。「自分ですべきと考え実行できた上で，よい結果を残せること」と。

ところがそれは野球だけの話にならないようにすることが最も重要と言っています。

「野球だけに集中した方が，効率が良いという考えもあるかもしれないが，それは先の人生で最終的にうまくいかない。最終的に問われるのは人間としての総合力だと思う。野球のプレーも人間的な評価も多くの場合は，短所が長所を消してしまう。こんないいところがあるのに，これができないから台無しだよねということが多い。だから短所に対して，丁寧に対処していない人間はやはり評価されない。だから人生は野球だけではないのだから，野球だけやっていればいいということにならない。やりたいことをやりたければ，やりたくないこともしっかり向き合う必要がある。スポーツの世界で天才と言われる選手でも，それ以外のことを疎かにして成功している例はまずない」と言って

いました。私も話を聞いて，自分に重ね合わせて学ぶ機会になりました。

人が一番成長する時は，挫折した時と言われます。誰だって，真剣にやればやるほど挫折は必ずあります。その時，短所に向かう姿勢を疎かにしていると，おそらく対応する引き出しを身に付けることができないと思います。だから，やりたくないことに対してもしっかり向き合うことが，その人の引き出しをつくっていくことにつながると思います。私は，みなさんには逆に，挫折があることを前提に人生を歩んでもらいたいと思っています。挫折のない人生なんておもしろくないという思考ができるようになってほしい。挫折することで，初めて工夫が生まれて，人間としての総合力が上がっていくと考えられるようになってほしい。つまり「**人生は敗者復活戦！**」と考えられるようになってほしいと思っています。